

進展する台日間の産業協力

— 經濟部が支援する産業連携推進 —

「台日産業連携推進オフィス」開設

3月21日に「台日産業連携推進オフィス(TJPO)」が開設された。

施顏祥・経済部長(経済相)は、この日行われた式典の中で、台日産業協力推進体制の構築、日本との人脈ネットワークの活用、大型企業との協力的体制の深化、重点産業への集中、地方産業とのリンクと中小企業協力の促進、政策資源の統合など6項目の推進戦略に基づき、双方の産業協力を、同オフィスを通して深めていく方針を示した。

經濟部が東京で「台湾投資説明会」

梁国新・経済部政務次長を団長とする投資促進・産業協力訪日団が7月11日、東京・大手町の経団連会館で「台湾投資説明会」を開催し、台湾の投資環境や台日企業アライアンスのメリットなどを紹介し、台湾投資を通じたグローバル展開を呼びかけた。台北駐日経済文化代表処の沈斯淳・代表はあいさつの中で、昨年

9月に台日投資協定が調印され、昨年1年間で日本から台湾への投資件数が441件と過去最高を更新したことなどを紹介した。

「台日産業連携セミナー・商談会」東京で開催

7月19日、「台日産業連携セミナー」および商談会が、經濟部国際貿易局、台日経済貿易発展基金会、台日商務交流協進会、日本交流協会日台ビジネス交流推進委員会の主催により東京都内のホテルで開催され、台日商務交流協進会の董炯熙・副理事長を団長とした「2012年台湾投資貿易、技術、投資商談訪日団」が来日出席した。董・団長はあいさつの中で、「台日双方が相互補完することにより、双方が良きビジネスパートナーとなることができる」と強調した。

「台日企業連携セミナー」日本各地で開催

台湾の亜東関係協会科学技術交流委員会が主催した台日企業連携セ

ナーが7月30日、埼玉県さいたま市で開催された。同セミナーでは、陳添枝・台日産業技術合作促進会理事長のあいさつの後、余吉政・台北駐日経済文化代表処副代表が「台日産業連携架け橋プロジェクトについて」をテーマに講演し、さらなる台日産業連携を促進していくために昨年9月に台日投資協定が結ばれたほか、「台日産業連携推進オフィス」を開設して対日窓口を一本化し、日本企業の台湾投資の円滑化をはかっていることを説明した。

台日産業技術合作促進会の高寛・顧問は、「兩岸経済協力枠組み協議(ECPA)」を活用したビジネス展開など台湾の優位性を強調した。同セミナーは8月1日に静岡県浜松市、8月3日に三重県津市でも開催された。

蕭万長・前副総統ら来日 「經濟部台日産業協力訪問団」

蕭万長・前副総統を最高顧問とし、經濟部の梁国新・政務次長を団長とした「2012年經濟部台日産業協力訪問団」一行は8月27日、日華議員懇談会、日本商工会議所への訪問

を終えた後、都内のホテルで記者会見を開いた。

蕭・前副総統は、「台日間には各分野において、長年にわたり築き上げられてきた基礎がある。さらには、最近の国際社会における環境の改善も加わり、台日関係はより一層強固なものとなっている。日本の対台湾投資もこれまでの記録を更新した。台日双方の産業界では、相互補完による協力の認識があることから、台日投資協定の成果を実行する最良のチャンスである」と強調した。

亜東協会と交流協会が調印 「台日特許審査ハイウェイ覚書」

台湾の亜東関係協会と日本交流協会は4月11日、特許手続き等の多岐面協力のための「台日特許審査ハイウェイ覚書」に調印した。

同覚書は特許出願書の審査を加速する等、互恵互利の手続きの内容を含むものであり、この覚書は今後、台日の経済・貿易関係のさらなる実質的な進展を促し、双方の業者にいずれもメリットをもたらすことが期待される。

【外交部 2012年4月11日】

馬英九・中華民國第13代總統就任演説

〜2期目の決意とビジョンを語る〜

成熟した民主社会に向けて

友好国の元首の皆様、来賓の皆様、華僑の皆様、全国民の皆様、テレビならびにインターネットでご覧いただいている皆様、お早うございます。

1月14日、私たちは中華民国にとって五度目の総統直接選挙を無事実施しました。これは、台湾が成熟した民主社会にまい進していく重要な一里塚です。自由と公正な選挙のプロセス、台湾の有権者全体が示した高度な民主政治の素養は、いずれも国際社会から賞賛されました。

私は、私と争った、民主進歩党の蔡英文主席(当時)と親民党の宋楚瑜主席が、選挙結果が明らかになつてから見せた民主的精神を称えたいと思います。皆様、一緒に台湾の民主政治に喝采を送ろうではありませんか。

国家は正しい道に復帰

過去4年間を振り返り、まず、私は全国の皆様のご支持に感謝したいと思います。私たちは共に世界的な

金融危機の嵐を乗り越え、台湾の経済成長を「東アジアの四小龍」(台湾・韓国・シンガポール・香港)のうち上位に返り咲かせました。私たちはまた、「88水害」(2009年8月の台風被害)の衝撃を共に経験し、ふるさとの再建を果たしました。

私たちは、政治の風紀を正し、憲法の精神を守り、司法の公正さと透明性を高めました。私たちは中央政府のスリム化と県・市の合併、直轄市への昇格という二つの大きな改革を完成させました。

私たちはまた、省エネルギーと二酸化炭素排出量の削減にも努め、「居住の正義」を推進し、社会のセーフティーネットを大幅に拡大しました。そして、過去60年で最も平和な台湾海峡情勢を作り出し、長期的なパートナーたちの信頼と国際社会の評価を得て、中華民國の国民は127の国と地域に、あらかじめビザを取得せずに行けるようになったのです。私はここで、蕭万長前副総統、劉

兆玄元行政院長、吳敦義前行政院長、陳冲行政院長ならびにすべての施政チーム、および王金平立法院長(国会議長)率いる立法院(国会)が、過去4年間、国民とともに懸命に努力してくれたことに感謝します。私は皆様の辛勞と貢献に対して、心より感謝し、今後も皆様の経験と知恵を引き続き借りていきたいと思えます。

黄金の十年：台湾の競争力向上
向こう4年を展望し、私は「黄金の十年」の国家ビジョンをもつて、すべての国民と共に奮闘していきたいと思えます。

私たちの目標は、平和で公平、正義のある幸福な国を建設することです。政府は、「経済成長のエネルギー強化」、「雇用の創出と、社会における公平と正義の定着」、「低炭素とグリーンエネルギーの環境づくり」、「文化的国力の構築」、及び「人材の積極的な育成と招聘」を国家発展の五本の柱として、台湾の国際的な競争力を全面的に高め、台湾を向こう4年間でまったく新しく生まれ変わらせ、幸福な社会へとまい進させていきます。

経済成長のエネルギー強化は、台湾の競争力を高める一本目の柱です。そしてこのエネルギーの核心は、経済環境の自由化と産業構造の質的向上にあります。

私たちは、アメリカと韓国の自由貿易協定が今年3月に発効したのを目にしました。中国大陸と日本、韓国の自由貿易協定交渉も年内にスタートします。私たちは自由化の歩みを速めなければなりません。これ以上、時間を無駄にはならないのです。台湾が世界に向けてオープンにならないければ、世界が台湾を受け入れることはありません。世界の政治・経済の秩序が再編され、経済の重心がアジアへとシフトする時代に向き合い、私たちは保護主義の思想を改め、時代にそぐわない法制度を見直し、貿易と投資に対する人為的な障害を取り除き、台湾のために、真に自由で開放された、国際社会とリンクする経済環境を整える必要があるのです。

「自由貿易アイランド」に向けて
私たちは現在、「自由経済モデルエリア」の設立を計画しています。高雄市はそのうちの一つです。これ

は台湾が「自由貿易アイランド」へと向かうための鍵となる第一歩です。私たちは、台湾海峡兩岸経済協力枠組み協議（ECFA）の後続交渉を全速力で終わらせるべきです。

また、シンガポール、ニュージーランドなど、主な貿易パートナーとの経済協力協定の締結に向けての話し合いも加速し、さらには8年以内に、環太平洋戦略的経済パートナーシップ協定（TPP）参加への準備を整え、世界の経済貿易体系に加わる歴史的なチャンスをつかまなければならないのです。

わが国の産業はかつて輝かしい業績を上げました。しかし、成長はすでに行き詰まっている状態です。私たちはこれから、産業構造の質的向上を積極的に進め、これまで効率を強調してきた生産モデルを基礎としながら、「イノベーション主導」と「価値の創造」を軸とする新たな産業モデルを積極的に発展させていくべきです。

私たちの戦略は、サービスの特質を製造業に取り入れ、科学技術と国際化の要素をサービス業に採り入れるというものです。さらに、従来型

産業には特色を打ち立てます。こうしてこそ、私たちの産業はより多元的になり、さらに高い付加価値を生み出せるのです。また、私たちの産業は確実に生まれ変わることができ、世界の経済体系の中で、取って代わることのできない地位を築くことができるのです。

雇用創出、社会の公平と正義定着 台湾の競争力を高めるための二本目の柱は、雇用の創出と、社会における公平と正義の定着です。

グローバル化による市場の自由化は労働市場の競争を国際化しています。経済成長を追求しなければ、私たちはより多くの雇用機会を生み出すことはできません。経済成長は各業種同時の給与上昇を促すものであるべきで、そうでなければ成長に意義はありません。そして私たちは公平と正義を堅持し、貧富の差を縮め、経済成長の恩恵を国民全体で享受できるようにすべきです。

政府の財政構造健全化は喫緊の課題です。私たちは、「能力に見合った課税」と「租税の正義」を確実に実現し、万全な社会安全体系を構築、社会的弱者たちの基本的な権益を守

ろうと努力しています。同時に、インフラストラクチャーや公共サービス、教育資源を合理的に配置し、バランスが取れ、それぞれが特色を持つ地域の発展モデルを作り上げることで、都市と地方の格差を縮めていきます。すべての人に、性別や地域、血縁や出身を問わず、公平に幸福を追求できる機会が与えられねばならないのです。

長期的な少子化と高齢化は、台湾が直面する国家の安全保障にかかわる課題です。私たちは先見性ある人口政策を策定し、行き届いた国民健康保険制度と国民年金制度を確立すると共に、長期的なケア体系をできる限り早く整備する必要があります。幼児に対する、より行き届いた託児と支援の措置を取り、両親と子供たちに最も温かいサポートを提供するのです。

司法は人々の権益を保障する正義の防衛ラインです。4年来、私たちは「刑事妥速審判法」（審理加速法）、「裁判官法」、「家事事件法」（家庭事件法）を成立させました。また、「廉政署」を設置したほか、最高裁判所における担当裁判官の案件秘密分配

制度も歴史上のものとなりました。司法は独立していなければなりません、孤立することは絶対に許されませんし、司法の正義に対する、人々の理にかなった期待を裏切ることもあってはなりません。向こう4年間、私は力を尽くして、社会の動きと結びついた司法改革を全力で推し進め、わが国が100年前に西洋社会から導入した司法制度を、しっかりと台湾に根付かせ、法治を私たちの生活方式とし、人権を私たちの内面的な価値にしていきたいと思います。

低炭素とグリーンエネルギー

台湾の競争力を高めるための三本の柱は、低炭素とグリーンエネルギーの環境づくりです。地球の気候変動と資源の需給アンバランスは台湾にとっての挑戦であり、チャンスでもあります。将来、世界のすべての産業はグリーンな生産を重んじるようになります。グリーン産業は今後、産業競争の新たな領域となり、消費形態も省エネルギーと二酸化炭素排出量削減の要求に応じていかなばなりません。私たちは、民間がグリーンエネルギー産業やグリーン建築、グリーン生産の研究開発や投

資を拡大することを奨励、グリーン産業を雇用と成長を牽引する新たな魅力的なポイントとして、台湾を一步一歩、「低炭素のグリーンエネルギーアイランド」にできるよう努力します。私たちは、持続可能な発展の理念を堅持し、澄んだ青空、清潔な空気、豊かな水資源、活力あふれる山林、溪流、湿地と海を、次世代に残していかなばなりません。

政策上、私たちは、エネルギー価格を合理化し、省エネと二酸化炭素削減、及びグリーンエネルギー産業に対する投資促進の原動力を生み出します。石油製品や電力事業など公共事業を市場メカニズムに回帰させ、「使用者による負担」の原則を定着させます。そしてさらに、国営事業の改革や経営効率の向上などに対する国民の高度な期待に応え、消費者と生産者にウィン・ウィンの局面をもたらしめます。

台湾の三つの文化的特質

文化的国力の構築は、台湾の競争力を高めるための四本目の柱です。台湾には三つの文化的特質があります。まず、公民としての素養が深いこと。次に、伝統的な文化が万全な

形で保存されていること。そして三番目に、伝統と現代とのつながりと転換が極めて繊細であることです。民主制度が私たちの公民社会を作り上げました。公民社会における開放的な気風と自由の精神は、創作者たちを育てる土壌となりました。

開放と自由の土地で、私たちはタイワニーズオペラや、人形劇の布袋戲(ボテヒ)など、伝統文化を保存する一方で、雲門舞集(クラウドゲイト・ダンスシアター)、朱宗慶打擊樂團(ジュー・パークァッショングループ)など、現代芸術のブランドをも生み出しました。私たちはハイテク化と国際化を追求すると同時に、一方では庶民の文化的公民権も主張しているのです。

開放的な社会だからこそ、あふれるほどのアイデアが生まれ、自由な環境だからこそ、大胆な発想が可能となります。台湾の創意は映画や流行音楽、書籍出版物などに注がれ、これらは文化産業となりました。いずれも世界の中国語社会において重要な地位にあります。しかし、産業にはそれをまとめるツールが必要で、文化的価値とコンテンツを、創

意による価値の付加と知的財産権のメカニズムを通じて、世界に販売可能な経済的生産高へと転換するので、経済的な生産高はそして、創作者の元へと戻って彼らを潤します。

文化は芸術やアイデア、産業というだけではなく、人々の日常生活の一部でもあります。最近、中国大陸の著名な作家、韓寒氏が台湾を訪れて自ら体験したことを発表しました。タクシーの運転手が落し物を持ち主に届け、メガネ店の主人が、メガネを壊して困っている観光客を熱心に助けようとしたことに、彼はショックを受け、感動したのです。また、さきごろ、花蓮のタクシー運転手、曾世誠さんは日本人の乗客が置き忘れた財布を、自動車を飛ばし、タグポートを介して、すでに港を離れたいた客船に追いつき、最後は財布をかごに入れて引き上げてもらう形で落とし主に届けました。私は、人を泣かせるこれらの善行が、中華文化における「善良さ」と「誠実さ」の核心的な価値であり、台湾の日常生活に溶け込んでいるのだと思います。

積極的な人材の育成と招聘

私たちは、文化を国力とみなし、

文化の建設を国力の構築だと考えます。文化への投資は国力への投資なのです。

積極的な人材の育成と招聘は、私たちが台湾の競争力を高めるための五本目の柱です。台湾には天然資源が乏しく、人材こそが私たちの最も重要な資源であり、国家の発展の鍵であるからです。

私たちは、大学のキャンパスを台湾の人材育成のゆりかご、そして、国家の競争力の源にしなければなりません。私たちは、開放的かつ、先を見すえた政策で、住みやすく、フレンドリーで、国際化され、差別無く、待遇の面でも他国に劣らない受け入れ環境を整備し、台湾の優秀な人材をつなぎとめると共に、世界の優秀な人材を招き入れるべきなのです。

私たちはいかなるときも子供たちに関心を寄せています。一人ひとりの子供に、経済的に豊かであるか貧しいかを問わず、国家の優れた人材となり、向上するチャンスがある、これこそが教育の中核です。実際に、映画監督のアン・リー(李安)氏やグラフィックデザイナーの蕭青陽氏

らがクリエイティブな分野で異彩を放つだけでなく、張逸軍氏と陳星合氏といった人もシルク・ドゥ・ソレイユの舞台上に立っています。ファッションデザイナーの古又文(ヨハン・クー)氏や吳季剛(ジェイソン・ウー)氏も世界のファッション界で輝きを放っています。これまでの4年間、台湾の若者たちがヨーロッパやアメリカ、アジアなどの国際的な発展展やデザイン展で、次々と優勝しています。

台湾はきわめて優れた人材と創造力を備えています。さらに心を込めて次の世代を育てるべく、義務教育年限を12年に延長する、良質の「12年国民基本教育」を提供し、一人ひとりが命を輝かせてほしいと考えています。

幸福な台湾を打ち立てる 国が発展するためには、改革が必要で、改革のためには、これに伴う痛みを受け止めねばなりません。私たちは絶対に、厄介な問題だからといって重い負担を次世代に残してはならないのです。私は、二期目を担う総統として最も重要な責任と使命は、国民とともに幸せな未来を作

り上げることだと深く理解しています。これからの任期において、私たちは揺るぎのない足どりで踏み出し、人々の支持を得るべく、リアルタイムで深く広くコミュニケーションを図っていきます。五本の柱で「幸福な台湾を打ち立てる」、これが私の二期目の目標です。台湾は競争力を高めてこそ生き残ることができるのであり、人々の幸せを守ることができるのです。

国家安全保障の三大支柱

国家の安全保障は中華民國の生存の鍵です。私は、兩岸の和解により台湾海峡の平和を実現し、実務的な活路外交によって国際社会における活躍の場を切り拓き、国防力によって外からの脅威を抑制することが、台湾の安全を確保する鉄のトライアングルとなると認識しています。私たちはこれらの一つひとつをひとしく重視し、バランスを取りながら展開していかねばなりません。

鉄のトライアングルの一つの頂点は、兩岸の和解により台湾海峡の平和を実現することです。これまでの4年間、政府は「対等、尊敬、互惠」の理念と、「台湾を主とし、人民に

有利であること」の原則を堅持しながら、兩岸の制度化された交渉を開き、16項目の協議(協定)の締結を通じて兩岸の和解を実現させました。行政機関は公開・透明を以って国会に対する責任を負い、野党との意思疎通を強化し、共通認識の達成に取り組んできました。これにより兩岸の和解に制度的な保障が確立しました。

過去4年間、私たちは、兩岸関係を改善し、台湾海峡の緊張を緩和してきたことで、平和と繁栄をもたらした。広く人々の支持を集めました。しかしながら、私たちの対中国大陸政策に疑念を示す人も一部存在しています。

私はここで、中華民國憲法が兩岸關係に取り組みにあたって最高の指導原則であるということを謹んで申し上げます。兩岸政策は中華民國憲法の枠組みのもと、「統一せず、独立せず、武力行使せず」という台湾海峡の現状を維持し、「1992年コンセンサス、一つの中国の解釈を各自表明する(九二共識、一中各表)」を基礎とし、兩岸の平和を推進しなければなりません。そして、私たち

の言う「一つの中国」とはもちろん、中華民國のことです。中華民國の領土は憲法に基づき、台湾と中国大陸を包括していますが、現時点で政府の統治権が及ぶのは台湾・澎湖・金門・馬祖にとどまっています。つまり、この20年来、憲法による兩岸の位置付けは「一つの中華民國、二つの地区」であり、3人の総統の時期を通して、まったく変わりはありません。これは、もともと理性的で実務的な位置付けであり、中華民國の遠い未来を見据えた発展と、台湾の安全保障のよりどころとなっています。

兩岸はこの現実を直視しつつ、共通点を求めて相違を残し、「相互の主権を承認せず、相互の統治権を否認せず」という共通認識を確立してこそ、安心して前に進むことができるのです。

これまでの4年間、私たちは「急ぎのものを先に、その他の問題はゆっくりと・解決しやすい問題を先に、難しい問題は後から・先に経済に対処し、後から政治問題を話し合う(先急後緩、先易後難、先経後政)」の原則ののっとり、兩岸の交流を推

進してきました。経済・貿易から交通、衛生、文化、教育、司法、金融などの分野まで、兩岸の交流は過去最高の活発さをみせています。これからの4年間で、兩岸はさらに新たな協力分野を切り拓き、引き続き平和を強固なものとし、繁栄を拡大し、相互信頼を深めていかなければなりません。そして、兩岸の民間団体が、民主、人権、法治、市民社会などの分野で、より多くの交流と対話の機会を持ち、兩岸の平和の発展にとってより有利な環境を打ち立ててくれることを望んでいます。

兩岸の人々はひとしく中華民族の遺産を受け継いでいます。血縁と歴史、文化をもとにし、ひとしく国父である孫文先生を尊敬しています。私たちは、国父の「天下は公のもの(天下為公)」という理念と、「自由、民主、均富」という建国の理念を忘れてはなりません。台湾は民主制度を実現してきた経験をもって、中華民族の土壌が外来のものである民主主義制度を少しも排除しないということを実証しています。私は、中国大陸において政治的参加が徐々に開放され、人権と法治が日増しに整

備され、公民社会が自主的に成長し、兩岸のひとびとの心理的な距離がさらに縮まることを心から望んでいます。

台湾の国際的な貢献拡大に向けて鉄のトライアングルの二つめの頂点は、実務的な活路外交によって国際社会における活躍の場を切り拓き、国際的な貢献を拡大することです。これまで4年間で、私たちは「砲火(のろし)外交」の手法をとらず、「活路外交」と「公正外交」の道を選んできました。「正当な目的、合法的なプロセス、効果的な執行」という対外援助の原則のもと、友好国との協力計画を進め、友好国も国際機関においてわが国のために絶えず正義に基づいた発言をしています。アメリカとも信頼関係をあらためて構築し、意思疎通のルート強化、多くの分野で密接な協力を展開し、過去30年来でもっとも強固な「安全保障・経済パートナー関係」を築き上げました。日本との間では在外公館の設置や、航空、文化、投資などの分野で軒並み重要な成果を上げ、過去40年来で最も友好的な「特別なパートナーシップ」を確立しています。欧

州連合(EU)や欧州議会もそれぞれ数回にわたる声明発表や決議を通じて、私たちの対中国大陸政策や、台湾・ヨーロッパ間の経済・貿易関係の強化を支持しています。

国際社会における活躍の場の開拓については3年前、38年の間離れていた世界保健機関(WHO)年次総会(WHA)にオブザーバーとして復帰しました。2010年には、世界貿易機関(WTO)の政府調達協定(GPA)にも参加しました。このように、兩岸関係の進展と私たちの国際社会における活躍の場の拡大は、相互に対立するものではないばかりか、相互に補完するものであることは事実が証明しています。

これからの4年間で、私たちは気候変動や民間航空といった分野の国連専門機関や国際的な枠組みの関連活動など、国際機関への参加をさらに広げていきます。国際的な非政府組織(NGO)においても、兩岸がともに許容し合い、相互に助け合うという、よき循環のモデルがより大きな効果と利益を生むよう願っています。

国際貢献の拡大において、台湾の

世界での活躍を支えている最も貴重な財産は、民間組織の満ち溢れる活力と、「すべての人と万物を愛する」という人道的な思いやりです。

2010年1月、ハイチで大地震が発生した際、現場に駆け付けたわが国の特種捜索救援隊の陳順天隊長と電話で話しましたが、電話の向こうから興奮した叫び声が聞こえてきました。それは、彼らが15分前に生存者を1人救い出したからでした。これはわが国による国際的な捜索救援の歴史における初めてのことでした。昨年3月11日の日本の東日本大震災・大津波災害では、民間と政府が力を合わせ、台湾円で66億元を寄付しました。これは世界一というだけでなく、ほかの90カ国余りを合わせた義援金総額を超えるものです。また、被災地で高齢者のために黙々と奉仕する台南の若い女性、蔡雨樺さんの善行に、両国の人々が感動しました。今年4月に訪問したアフリカで私は、現地で20年近くも医療に従事する黄其麟医師に会い、黄医師は厭うことなく労力を捧げ、世界の人々に台湾の医師の白衣の下にたぎる熱い血潮をみせてくれ

ました。このような例からも、台湾人が満ち溢れる命の情熱と困難を恐れない強靱さを備えており、台湾が真心からの友情を結ぶことができる原動力となっていることがわかるでしょう。

国防力により外からの脅威抑止

鉄のトライアングルの三つめの頂点は、国防力によって外からの脅威を抑止することです。「天下は安泰でも、戦いを忘れては危険だ」と古いことわざも言っています。私たちは戦いを求めませんが、戦いを恐れるものではありません。この4年間、私たちの防衛産業の自立と、新世代の兵力の強化、復興や災害救助などの取り組みにおいて、すべて目に見える成果を上げています。同時に、訓練の質・量を高め、国軍兵士の体力と技量を大幅に向上させました。さらに軍紀を引き締め、汚職の追放・防止でも際立った成果を上げました。これも軍備体制の整備における具体的な業績です。

海外からの武器調達においては、私の就任以来、アメリカはすでに3度にわたり、軍事設備の売却に同意しています。調達総額は183億米

ドルで、質・量ともに過去を上回るものです。これによって、私たちは今後適切な防衛力を備えることができ、政府と人々がより自信と意思をもって、安定的に両岸関係の発展に取り組むことができます。

今後4年間、私たちは自ら生産することの難しい防衛力としての武器を海外から調達していきます。また、兵士募集制度とその関連措置を整備して、「堅い守り、効果的な抑止」という戦略のもと、「革新的、非対称」の考え方で、量的には少なくとも、質的に洗練された堅固な国防力を確立します。これと同時に、わが国と周辺諸国との関係を強化し、積極的に国際業務に参与し、制度化された戦略的対話と協力の道筋の構築を推進、中華民国の主権と台湾の安全を保障し、地域の和平に積極的に貢献していきます。

新たな百年に向けスタート

国民の皆様、私はこれまでの4年間を振り返り、心から深く感激しています。私たちは、ともに金融危機の嵐を乗り越え、ともに建国100年という喜ばしいときを迎えました。また、自然災害という巨大な変化の

爪あとに涙を流し、台湾の若い世代のさまざまな分野での活躍に、眠れぬほど喜びました。

私たちは家族です。台湾は私たち共通の家です。与野党の間には異なる見解の相違があろうとも、私たちは家族なのです。過去の数年間、与野党間の和解には少なからぬ困難が存在しています。しかしながら、民主主義は私たち共通の価値観であり、この基礎の上で、必ずや共通認識を見出し、力を合わせて問題を解決することができる。私は信じています。

この4年間、相次いでさまざまな市民団体を招いて話し合ってきました。私は、なるべく早い時期の野党のリーダーとの対話を、誠意を持って願っています。与野党は相互に競争するだけでなく、お互いに協力することができる。人々に示さねばなりません。国民の福祉のため、ともに台湾の民主制度のよき規範を築こうではありませんか。

今年が中華民国100年であり、私たちはいま、歴史の分水嶺の上に立っています。過去100年間、先人たちの奮闘のプロセスを目撃して

きました。今後100年間における、国家の課題とチャンスの輪郭もはっきりと見えています。私は幸運なことに、中華民国がこの新たな100年に足を踏み入れてから初めて就任する総統として、この上なく重大な責任を感じています。

この荘厳で神聖な式典において、私と施政チームはあらためて国民の負託を受けました。私たちは、きわめて大きな重責を背負い、深い淵の際に立ったような心持ちと、薄氷を踏むような態度で、憲法によって賦与された職責を全力で履行して初めて、国民の信頼と負託に応えることができるのです。

新たな100年のスタートラインに立ち、今日私たちが築いた土台が、子供たちが未来に向かって歩むときの堅実な基礎となることを願っています。今日私たちが植えた若い苗木は、たえず成長し、次の世代が享受できる実を結ぶことでしよう。ともに理想を堅持し、手を携えて改革に取り組み、幸福な台湾を打ち立てましょう。

ありがとうございます。

【総統府 2012年5月20日】

台日文化芸能の出来事

「フィルハーモニア台湾」来日公演
台湾を代表するオーケストラの1

つ「フィルハーモニア台湾」が、今年11月9日(金)午後7時より、東京の初台にある東京オペラシテイコンサートホールで演奏会を開催する。

同公演は台北文化センターが後援し、同オーケストラの音楽監督である呂紹嘉(リュウ・シャオチャ)氏が指揮する。呂氏は、海外の著名オーケストラとの共演も多く、その実力を高く評価されている。当日は、チャイコフスキーの幻想序曲「ロミオとジュリエット」、グリーグのピアノ協奏曲イ短調、ドヴォルザークの交響曲第9番「新世界より」などが演奏される。

ドラマ・映画・音楽界の台日交流
活発な文化交流が進む中で、台湾のテレビドラマが日本ロケをとり入れている。例として「夜市人生」の宮崎県でのロケや、「給愛麗絲的奇蹟」(邦題:アリスへの奇跡、愛媛県)、「旋風管家」(ハヤテのごとく、長崎県)、「蜂蜜幸運草」(邦題:ハチミツとクローバー、香川県)、「花

之戀」(邦題:花の恋、石川県)、「陽光天使」(沖縄県、北海道ロケの「白色之戀」(2012年、台・日共同制作)などがある。

映画界では、李屏賓(リー・ピンビン)が、ノルウェイの森(2010年、監督:トラン・アン・ユン)等数多くの映画で撮影監督を務めた。台湾と日本を舞台に俳優・監督として活躍している北村豊晴は、台湾の

藍正龍(ラン・ジェンロン)と長澤まさみが共演する人気コミックのドラマ化「流氓蛋糕店」(邦題:シヨクラ)を2012年秋から手掛ける。

また、音楽界でも、今年8月に開催されたロックフェスティバル「サマソンニック2012」に台湾のバンド、「五月天(MAYDAY)」、「李雨寰(DMDD)」、「四分衛(Quarterback)」、「滅火器(Fire EX)」、「1976」が出演し、熱いステージを繰り広げた。

「日台文化芸能の出来事」は、年表形式で資料をウェブサイトで公開しています。台北駐日経済文化代表処ウェブサイトの台湾資料庫をご覧ください。
<http://www.roc-taiwan.org/jp>

台北駐日経済文化代表処

〒108-0071 東京都港区白金台五丁目二二

電話:〇三(三三八〇)七八一一

交通 ①地下鉄南北線・三田線「白金台駅」一番出口から徒歩五分
②JR山手線「目黒駅」下車徒歩十分
<http://www.roc-taiwan.org/jp>

台北駐日経済文化代表処横浜分処

〒231-0021 横浜市中区日本大通り六十番地 朝日生命横浜ビル二階

電話:〇四五(六四一)七七三六〇八

交通 ①みなとみらい線「日本大通り駅」下車徒歩二分
②JR・横浜市営地下鉄「関内駅」下車徒歩五分
<http://www.roc-taiwan.org/jp/YOK>

台北駐大阪経済文化弁事処

〒550-0001 大阪府西区土佐堀一丁目四一八 日栄ビル四階

電話:〇六(六四四三)八四八一〇七

交通 地下鉄四つ橋線「肥後橋駅」下車徒歩四分
<http://www.roc-taiwan.org/jp/OSA>

台北駐大阪経済文化弁事処福岡分処

〒810-0024 福岡市中央区桜坂三丁目二十四十二

電話:〇九二(七三四)二八二〇一一

交通 地下鉄七隈線「桜坂」下車徒歩十分
<http://www.roc-taiwan.org/jp/FUK>

台北駐日経済文化代表処那覇分処

〒900-0015 沖縄県那覇市久茂地三丁目一五九 アルテビル那覇六階

電話:〇九八(八六二)七〇〇八

交通 沖縄都市モノレール「県庁前駅」下車徒歩五分
<http://www.roc-taiwan.org/jp/NA>

台北駐日経済文化代表処札幌分処

〒060-0004 北海道札幌市中央区北四条西四丁目一番地 伊藤ビル五階

電話:〇一一(二二二)二九三〇

交通 JR「札幌駅」南口、地下鉄「さっぽろ駅」三番出口より徒歩一分
<http://www.roc-taiwan.org/jp/OKD>